

# ラボの支援で開発に弾み 国産米利用のバイオマスプラスチック

都産技研が行う事業の一つである製品開発支援ラボ。これは、企業が持っている技術を製品化・事業化するに当たり、必要な研究や実験、試験を行うことができるレンタルスペースです。この製品開発支援ラボに入居されている企業をご紹介しますシリーズ第2回は、株式会社バイオマステクノロジーにご登場いただき、ラボがどのように事業に貢献しているかについて語っていただきました。

## 株式会社バイオマステクノロジー



(株)バイオマステクノロジー  
代表取締役社長 神谷 雄仁さん



「ライスロン®」を使った製品  
上:「お米のつまき®」、「お米のらっぱ®」「お米のマラカス®」  
下:「お米の食器セット®」

### 国内資源の国産バイオマスプラスチック原料メーカー

当社は、バイオマス資源を利用したプラスチック樹脂原料の製造・販売、啓蒙活動を行っている企業です。資源米や木粉、竹・竹炭などの国内資源を原料に、ポリオレフィンを加え特殊技術で複合した「BTペレット」や、その一種で、非食用の資源米などを原料とした「Riceron®[ライスロン]」(以下、「ライスロン®」)など、石油系プラスチックと同等の耐久性・耐熱性・加工性を持ちながら安全で環境にもやさしい原料を開発しています。

### ラボの支援を受け、米を利用した「ライスロン®」を開発

「ライスロン®」は、非食用の米とポリプロピレンを混ぜて加圧・減圧しながら製造するもので、ピープル株式会社が発売している赤ちゃん用の積み木「お米のつまき®」や「お米の食器セット」などに利用されています。

この開発には、製品開発支援ラボに入居できたことが大きく影響しています。「ライスロン®」の成形や硬さ・柔らかさ、色ムラなどの問題をどう解決したらいいか、どういう分析をしたらいいかなどを迅速に相談できましたし、必要な時に必要な試験を行ってもらうことができました。また、本部で対応できなければ墨田支所などに相談するなど、多角的にフォローしていただきました。

### 多種多様な要求に对应していくためにもラボの存在は大きい

素材メーカーとして、ユーザーからの多様な要求に「わかりません」「できません」とは言えません。その点、依頼試験や分析の環境が整っている製品開発支援ラボは、我々のようなベンチャー企業には本当にありがたい存在です。多様な業種が集まってものづくりをする現場では、必要とされる知見や試験も異なりますが、製品開発支援ラボにいて、例えば会議中にわからないことがあれば、その場で相談することができました。技術的に足りない部分を都産技研に補完してもらうことで、製品開発やビジネス展開のスピードアップを図ることができました。そうしたメリットが重なって、ユーザーに満足していただける高い品質を誇る「ライスロン®」を産み出すことができたと感じています。

今後、原料や製品に対するユーザーの要求はさらに高度なものとなっていきます。企業だけでは解決できない問題も増えてくるでしょう。そのためにも、製品開発支援ラボのように相談ができ、技術課題の解決につなげられる場の存在意義はますます大きくなっていくと思います。